



## 宮司ぷしス第六十二号

彦島八幡宮 宮司 ニュース

発行者 彦島八幡宮

宮司 柴田 宜夫

発行 平成二十三年 七月二十一日

◇宮司の柴田です。 今月の上旬には、気象庁より中国地方にも、昨年より十日ほど早く、「梅雨明け」が宣言され、いよいよ夏本番を迎えています。 台風六号の吹き返しの風の通りぬける部屋は、まるでクーラーがよく効いているように感じられます。 梅雨明けの早い夏の暑さは格別に厳しくなるそうですが、猛暑の日々も、「台風一過(たいふういつか)」、一息ついたようですね。

◇先日、実家に帰省しました。 実兄の五十年祭を奉仕するためであります。 私は、戸籍上三男でありまして、昭和三十三年に生まれた長兄は、数え三歳の祝いをする事もなく、満二歳と九か月で逝去しました。 昭和三十六年七月四日、母がほんの束の間に目を離れたその刹那(せつな、瞬間という意味です)、家の窓の下を流れる用水路に落ちて流され、尊い命を失ったのです。 私の生まれる一年も前の出来事でした。 従いまして、次兄は、長兄と時間を共有できましたが、私は、この現世(うつしよ)で、相見(あいまみ) える事ができませんでした。 しかしながら、親戚の家のオートバイに

またがり微笑んでいる遺影の兄の姿は、今でも、  
瞼(まぶた)に焼きついています。

◇その五十年祭と二緒に、昨年、今年と相次いで逝去した叔父と叔母の霊祭(みたままつり)も併せて行うという事でした。 御多分(ごたぶん)に漏(も)れず、いつも茶飯事(さはんじ)であります。 作文にとりかかったのが、奉仕する前日の夜でありますから、長兄の五十年祭の祭詞(さいし)は、叔父と叔母の祭詞を書き終えたのは、当日の午前二時の事でした。

五十年祭の祭詞では、「親より先に逝去するのは、親不孝(おんこ)であるとのべつとも、兄をのみ

こんだのは、人の力ではどうする事も出来ない大自然の脅威であって、「自然への畏敬の思い」を忘れてはならないと説きました。 さらに、兄の「短い命」を決して忘れてはならないし、その「無念の思い」を、残された家族が引き継ぎ、生き永(なが)らえるのですから、これからもお守りくださいと、祈りを捧げました。

そして、父や母は、五十年間その悲しみに向き合い、特に母は、親の過ちと自分を責め続けてきたわけですから、「許し給えよ」と申し上

げました。

◇年祭(ねんさい)と霊祭(みたままつり)を終えて、兄や叔父、叔母をしのびつつ食事をしましたが、その席で、「心のこもった祭詞で、気がホツとした」と父や母から言われ、面目躍如(めんぼくやくじよ)でありました。 母は、私に、初めてその当時の事を述懐(じゆつかい)してくれました。 兄を亡くしたあと、ご飯もどに通らず、ご飯が食べられるようになって、それからしばらくは、ご飯が、「砂をかむよう」に味気ないものだったそうで、「精神的なショックが大きかった」そうです。 遺族の悲嘆(ひたん)からの回復の事を、「グリーンケア」といいますが、父や母のこの五十年の歲月は、まさに、「グリーン ケア」の歩みであったのです。

◇作家の藤本義一さんは、「人間、生きていくために、いつも、生きる事を教えてくれた人を出さなくてはならない」とおっしゃいました。 私の生まれる前に亡くなった長兄の存在は、私に、「生かされて生きている」という人間の宿命を学ばせてくれたのです。 長兄の寝顔を見た私の祖母は、「神様のように安らかだ」といったそうです。 今月の二十七日で満四十九歳を迎える私は、その長兄の顔をいつも思い出さなくてはならないのです。

◇先の東日本大震災では、私の長兄と同じよう

に、沢山の方が、大自然に尊い命をのみこまれてしまいました。我々国民こそぞって、遺族の方々の「悲嘆からの回復 グリーフ ケア」への歩みに、あたたかい心を寄せ続けなければなりません。さらには、「大自然の脅威」を、命を投げ出して教えてくれた方々を、「大震災後」を生き抜いていく我々は、忘れてはならないのではないのでしょうか。

ご自愛を祈ります。

◇六月、七月の祭典行事報告

▼紫陽花がきれいに咲きました



▼朝粥会 \*六月二十一日 午前六時半

▼下関中等教育学校野球部必勝祈願祭

\*六月二十六日(上の写真)

▼大祓式 \*六月三十日(下の写真)

\*祭典終了後、新しい常任総代の歓迎会を開催



▼月次祭 \*七月一日、十五日

▼六連島七社祭 \*七月九日

▼福浦金刀比羅宮月次祭 \*七月十日

▼竹の子島天満宮例祭 \*七月十五日

◇七月の祭典行事予定

▼朝粥会 \*七月二十一日 午前六時半

▼敬神婦人会草刈奉仕作業

\*七月二十三日、二十四日早朝

▼夏越祭

▼奉納グランドゴルフ大会 \*七月二十四日

◆本宮 前夜祭 七月二十九日

\*音楽イベントがあります！

本殿祭、御神幸祭 七月三十日

\*両日とも茅の輪くぐりです！

\*彦島くまなくお神輿が廻ります

◆田の首八幡宮 七月二十四日

◆六連島八幡宮 七月二十五日

\*六連島内の各家を戸別にお祓いし

てまわります

◆海士郷恵比須神社 七月三十一日

◇七月の宮司の行事会議等予定(報告も含む)

▼山口県神社庁並びに下関支部関係

◇役員会、支部長事務局長会議、総代会役員会

\*七月五日

◇山口県八幡宮会総会 \*七月七日

◇神道史研究会総会、教学研究委員会

\*七月十二日

◇神職養成講習会開講式 \*七月二十七日

▼西ローターリークラブ

◇例会 \*七月六日、十三日、二十七日

◇メーキャップ \*七月二十八日、二十九日

▼講演活動

◇宮司講和会\*七月一日※午後六時、どなたでも

参加できます！※次回は、八月一日！

▼当宮関係団体

◇維蘇志会会員有志と全国氏子青年協議会

全国大会へ参加、祇園祭りを参観

\*七月十六日〜十七日



▼倫理法人会 モーニングセミナー

\*七月二十七日

▼人権擁護委員関係

◇委嘱状交付、並びに新人研修 \*七月六日

▼教誨活動(美祿社会復帰促進センター)

◇集合教誨(男子)

\*七月二十五日

▼自治会関係、その他

◇亡き実兄の五十年祭奉仕のため、熊本へ帰郷

\*七月二日〜三日

◇まほろば学級案内状を小学校へ配布

\*七月四日(彦島の五つの小学校へ)

◇彦島八幡宮わいわいリーグ(ソフトボール)

暑気払い \*七月二十三日